

# 緑のセンターだより



No.142

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）  
 〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626  
 旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 25 年 6 月 1 日



## 講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「山野草講座」-タイリントキソウの育て方-

とき 平成 25 年 6 月 2 日（日）  
 午後 1:30~3:30 定員 50 名  
 講師 北海道山草趣味の会 藤原政光さん



「庭木の剪定」-ツツジ類など花木- **実習**

とき 平成 25 年 6 月 23 日（日）  
 午後 1:30~3:30 定員 20 名  
 講師 協会職員



「フラワーハンキングバスケットづくり」 **実習**

とき 平成 25 年 6 月 30 日（日）教材費 2,000 円  
 午後 1:30~3:30 定員 20 名  
 講師 フラワーマスター 山本裕美さん



「植物の病気と害虫と農薬の正しい使い方」

とき 平成 25 年 7 月 7 日（日）  
 午後 1:30~3:30 定員 50 名  
 講師 相談員



「観葉植物の寄せ植え」 **実習**

とき 平成 25 年 7 月 14 日（日）教材費 600 円  
 午後 1:30~3:30 定員 20 名  
 講師 相談員



〈 連続講座のお知らせ 〉

第 2 回目 6 月 16 日「植物の殖やし方」  
 ・講義と実習 さし木と取り木  
 第 3 回目 7 月 21 日「神楽岡公園の帰化植物」  
 ・講義と実習 オオハゴソウ抜き



《緑のセンターまつり2013》8月4日（日）10時~16時

BINGO



☆花と緑の相談コーナー☆

催し：フラワービンゴゲーム、親子もちつき大会・よさこい演舞・神楽岡太鼓  
 寄植え体験コーナー・屋台…ヤキトリ、ビール、農産物、園芸の即売  
 展示：洋ラン・ミニ盆栽・山野草・盆景・押花 球根プレゼント！

「神楽岡公園を知ろう」-巨木と木の身体検査-

とき 平成 25 年 8 月 8 日（木）（小・中・一般）  
 午後 1:30~3:30 定員 30 名  
 講師 旭川みどり 21 の会代表 成田一芳さん



（初日は午後から、最終日は 4 時まで）

## 展示会のご案内

「温室の植物写真展」6 月 8 日~30 日 「帰化植物展」7 月 1 日~31 日  
 出展：森忠雄さん 出展：旭川帰化植物研究会

【休館日のご案内】

4 月~10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です。（祝日の場合は翌日）  
 11 月~ 3 月は毎週月曜日が休館日です。（ " ）

### 花フェスタ 2013

会場：大雪アリーナ  
 期間：6 月 12 日~16 日（日）  
 【花と緑の相談コーナー】10-16 時



【野点のお楽しみ】  
 16 日（日）10-14 時  
 300 円



## 〈園芸の基礎知識〉 家庭園芸の肥料

### ～ ① 肥料の必要性 ～

このコーナーでは、「家庭園芸の肥料」を4回シリーズで取り上げます。今回は「肥料の必要性」を説明します。

人はご飯やおかずなどを食べて栄養を摂って成長するように、植物は土中に伸びた根から水分や栄養分を吸収して成長します。

自然界では落ち葉や動物のフン、死がいなどが腐って分解され、植物の栄養になります。それにより成長した植物が再び動物のエサになります。このように物質循環が行われているのです。

しかし、手入れされた庭や鉢植えなどの限られた狭いエリアでは、物質循環がなかなかできません。このような状況では植物が正常に育つための栄養が不足します。また、野生の植物は少ない栄養分でも育ちますが、大きな花や実を付けるように改良された園芸植物では、肥料で栄養分を補ってやらなければ十分に育つことができません。このように園芸植物にとって肥料は欠かすことのできないものなのです。園芸植物は肥料の与え方を工夫すれば、驚くほどの効果があり、満足する結果が得られます。

(参考資料：住友化学園芸「肥料の基礎知識」、誠文堂新光社「園芸家のための花づくりの科学」)

## 緑の相談 Q&A (16)

庭のチューリップが全部散りました。この後、どのように管理すれば良いか教えてください。

チューリップは、地中海東海岸から中央アジアにかけ自生するユリ科チューリップ属の春咲きの球根植物です。自生地は地中海性気候で、夏は雨が少なく乾燥しており、秋から冬は雨が多い気候で育ちます。原種も園芸品種も乾燥した夏には休眠し、雨の多い秋から春にかけて成長します。

しかし、日本の気候は夏が高温多湿ですので、そのままでは球根が腐る恐れがあります。本州以南ではこれを防ぐために休眠に入ると必ず球根を掘り上げて乾燥保存します。

そのような中でも、北海道の夏は比較的乾燥していますので、土質がよければ植えたままでも球根が腐ることはないようです。それでも分球や植替えをするために、毎年か、少なくとも2～3年に1度は掘り上げて乾燥保存するのが一般的です。

花が終わりましたらタネを付けないように花首を手で折り取り、葉と茎は球根を育てるために、自然に枯れるまで切らないようにしてください。

### ◎育て方のポイント◎

《植え場所》 日当たりと排水のよい、砂質系土壌が最適。

《肥料》 春の雪解け後とつぼみの頃に、それぞれ速効性の化成肥料を1㎡に一握り程度散布。

《掘り上げ》 葉が黄色くなり、地上部が枯れ始めたら掘り上げ。(7月頃が適期)

《消毒》 掘り上げ後、葉や根などが完全に枯れてから、これらを球根から外し、球根を殺菌剤を規定倍率で溶かした液に1時間程度浸して消毒し、陰干で乾燥。

《貯蔵》 十分乾燥したら、網袋に入れて風通しのよい日陰に吊るすなどして植付けまで貯蔵。

《植付け》 植付け前に苦土石灰などを撒いて床づくりし、10月頃に球根3つ分の深さで植付。

《病気》 今まで出たことがなかった株に、葉や茎にモザイク斑や花弁に濃淡のすじが入った株を見つけたら要注意。ウイルス病の疑いがありますので、早めに抜き取り焼却処分。

(参考資料：北海道新聞社「北で育てる魅力の花」ほか)



# 植物の病害虫

## その16 「ブドウハモグリダニ」

家庭菜園のブドウ園では、6月になって葉が展開すると葉表に多数のコブが発生することがあります。ごく微小のダニの一種によって発生します。



葉に多数のコブが発生



葉表拡大



葉裏の毛せん状のカビ

### 1 寄生しやすい植物 ブドウ

### 2 被害

このダニはブドウの葉裏に寄生して加害します。加害されると葉の裏には毛せん状の毛が多数生じ、葉の表は円形から楕円形に膨れ上がり、被害が著しい場合には火ぶくれ症状となって肥厚します。

ダニの生息密度が高い場合には新鞘の先端部の葉が展開せず枯死することがありますが、少～中発生の場合、実害はほとんどありません。

### 3 生態

成虫は結果母枝の芽のりん片下で越冬します。発芽期から活動を開始し、6月上旬頃に展葉直後の若葉の葉裏に移動して加害します。展葉すると次々と若葉に移動して加害するので、新鞘先端部での寄生密度が高くなります。

このダニはうじ虫状の微小なダニで、雌の体長は160～200 $\mu$ 、雄は140～160 $\mu$ で肉眼で判定することはできません。やや細長いくさび形をしており、体色は黄白色、体の先端部に2対の脚があります。卵は円形で白色透明です。

### 5 防除法

- (1) 少発生の場合、収穫に影響はないので防除する必要はありません。
- (2) 火ぶくれ症状が株全面に見られ、収穫に影響があったブドウ園では休眠期（融雪直後）に石灰硫黄合剤を散布します。
- (3) 新鞘から葉が展開し始めたらダニ剤を10日間隔で2～3回散布します。

# ジャーマンアイリス花後の管理

ジャーマンアイリスは 植えたままにしておくと、込み合って株が弱り花も少なくなります。庭植えでは3～4年に一回は株分けをし、植替えを行いましょう。

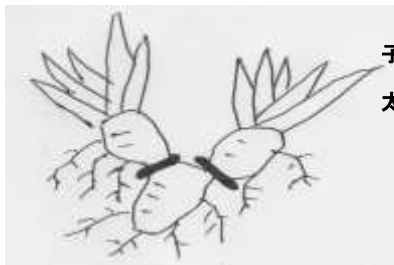
## 花がら摘み

一つの茎に数輪の花が咲くので、花が枯れてきたらこまめに摘み取り、花茎全て咲き終わったら根元から花茎を切り取ります。切り口からの腐敗を防ぐため作業は晴天時に行いましょう。

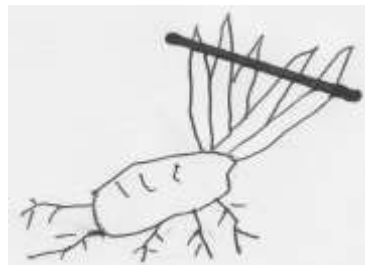
## 株分け

花が終わった後か、初秋の9月頃です。

根を傷めないよう株を掘り起し、大きく良く発達している根茎を選び土を落とし、子株を親株から折り取ります。子株は大きくて葉が多く出ているものを選びましょう。葉は20 cm位に切り、株の切り口に木灰をつけるか、2～3日日陰で乾かします。切り口を乾かさないうで植付けると病気にかかり易くなります。根も長いものは20 cm位に切除します。



子株を折り取る  
太線のところで切る



葉は20 cm位に切る  
根の腐れ等ないか確認  
太線のところで切る

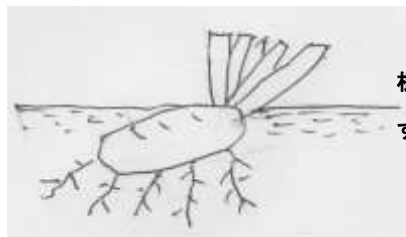
## 植え場所

「いや地」になり易いので新しい場所を選びましょう。日当たり風通しの良い、弱アルカリ性で乾いて水はけの良い場所を好みます。過湿には大変弱いので注意しましょう。

植え場所は、30 cm以上掘り起し腐葉土（堆肥）を混ぜ埋め戻します。酸性土の場合は石灰で矯正します。植え付け時は特にやせ地でなければ肥料は施用しなくて良いでしょう。

## 植え方

植付け間隔は50×20～30 cm位。  
深さは根茎が見え隠れする程度の深さに植えます。



根茎の一部が見え隠れする位浅く植える

## 展示室の植物（49）

デイフェンバキア（別名 シロガスリソウ）

サトイモ科デイフェンバキア（シロガスリソウ）属



熱帯アメリカに約30種を有する常緑性の多年草で、葉が美しく古くから人気のある観葉植物です。株が大型になるものと、小型のものがあります。

耐暑性はありますが直射光線による葉焼けには要注意です。

寒さには弱く最低でも10℃以上必要です。茎葉を切った時に出る汁には有毒成分が含まれているので注意してください。